エコ住宅、デザイン、ライフスタイル…

量から質へ―個性豊かな商品開発

住宅では多様化する顧客のニーズを取り込もうと住宅メーカー各社が個性豊かな商品開発を進めている。省エネルギーを意識したエコ住宅はもちろん、インテリアメーカーとコラボした商品、社会とのつながりを設計に取り入れた住宅など個性的な商品がずらりと並ぶ。住宅の普及が一巡し、「量」から「質」への転換の動きが進む中で、住宅業界は特徴的な商品の開発に挑戦している。

エネルギー効率管理

光・風…自然の力を活用

供給戸数で業界トップの積水ハウスは三角状屋根の上部空間を2階とし客間や子供部屋に活用した木造住宅「里楽（りらく）プラスワン　エディション」を発売した。木質系住宅の主力ブランド「シャーウッド」の新商品で、屋根の勾配は太陽光発電の効率が高い角度に設定した。1階は寝室や水周りなどを広く間取りを確保した。価格は一坪（約3・3平方㍍）あたり59万円から。月間販売目標は60棟に設定している。

小屋根裏空間に「プラスワン・フロア」と題したスペースを設け、多様化する家族の暮らし方に適用できる作りとした。また開口部を大きくとることで室内外との一体感を強めている。

躯体自体の高い断熱性や太陽光発電の積載効率が高い屋根を利用すれば住宅内のエネルギー使用量を正味ゼロにする「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）」に対応できるのも特徴だ。同社は4月にZEH「グリーンファーストゼロ」を新しい住宅の設計モデルとして発売。8月末までで戸建て住宅に占める普及率は60％以上と好調に推移している。

エネルギーを効率的に管理するという面が強いスマートハウス（環境配慮型住宅）をさらに一歩発展させたのが積水化学工業だ。同社は積雪地域に対応できるスマートハウスを新たに開発した。

ユニット工法による建物自体の強さに加え、屋根には耐久性に優れたステンレス製鋼板を採用。重労働の雪下ろしの作業負担を軽減させる作りとしている。デザイン面も重視し、外壁には風雨や紫外線に強い磁器タイルを採用。タイルには6色を用意し、1色で統一するだけでなく、2色を合わせた印象的な外観にすることもできるという。

さらに、女性プランナーの視点を取り入れ、家事がしやすい設計を随所に盛り込んだ。雨や雪の日でも天候を気にせず洗濯物を干すことができる室内物干しスペース「ランドリーエリア」や、玄関横に雪かき道具や長靴などが収納できる「サイドストック」などを提案している。

省エネルギーなどエネルギー配慮型の住宅は引き続き、住宅メーカーが注力して開発している。ポラスグループ（埼玉県越谷市）はさいたま市大宮区で、全125棟を国が省エネに優れた認定低炭素住宅と認めた大型分譲住宅を11月上旬に発売する。開発面積は約2万5300平方㍍。計画地の特性に合わせて、街区をZEH仕様街区、自然の風や光を取り入れたパッシブデザインの街区などと区分けし、環境趣向に合わせて選択できるように構成した。国の「住宅・建築物省CO_2先導事業」にも採択されている。

ポラスグループは埼玉県を中心に千葉県や東京都で分譲住宅を主力に事業展開している。省エネに優れたエコ住宅に関しては、単体の注文住宅で展開する事例は多いが、分譲住宅で手がける例は珍しい。同社ではグループのポラス暮らし科学研究所が培った研究成果を活用し、分譲地全体で風が通りやすい設計を取り入れるなど、パッシブデザインを強化している。

ミサワホームも住宅内に光や風など自然の力を活用して省エネにつなげる「微気候デザイン」を設計に取り入れている。木造軸組工法の戸建て住宅「MJWood」では日本家屋で伝統的な「田」の字型の設計を採用。夏場、冬場と季節に応じて空間を使い分けられる「夏の座」「冬の座」と題した空間を1階に設けた。夏の座では深い軒で光を遮るとともに上部が吹き抜け構造となっている。上部に設置したファンで、熱気を排出できるようにした。

積水ハウスの「里楽プラスワン　エディション」

こだわりのインテリア

二世帯・高齢者にも配慮

多様化するニーズに合わせようと、個性的なデザインやコンセプトの住宅も並ぶ。

大和ハウス工業は異業種企業とコラボレーションした木造戸建て住宅「ジーヴォ　グランウッド」の新商品を発売した。デンマーク発のインテリアブランド「ボーコンセプト」を扱うボーコンセプト・ジャパン（東京都港区）、パリ発の雑貨ショップ「キャトル・セゾン」を日本で扱う私の部屋リビング（東京都目黒区）と連携。洋風のシンプルなデザインの内装、外観を取り入れた住宅としている。

注文住宅というと、住宅展示場を販売チャンネルの軸に据え、受注を獲得することが多い。今後は連携先のインテリアメーカーの販路も活用し、インテリアにこだわる層からの受注獲得を目指すなど、販売チャンネルを広げる。

二世帯住宅のパイオニアである旭化成ホームズは、「実家力」を意識した新しい二世帯住宅「都市の実家」を発売した。実家力とは外に出て独立した子世帯のほか、友人とのつながりを育むことのできる力のこと。新商品はこの実家力を備え、子世帯などが気軽に遊びに来ることができるよう、50―60坪のコンパクトな二世帯住宅として開発した。

例えば調理・食事をする「イマドキLDK」。従来はリビングを集う場所とするため、大勢の家族用の食卓を入れるとどうしてもLDKの合計面積が大きくなりがちだった。そこでダイニング・キッチンをフル活用し、最大10人が座れる大きなテーブルを設置。キッチンや食器棚は壁沿いに設置することでスペースを確保した。

隣には食事以外でくつろげる畳部屋「タタミリビング」を設けた。ここは、遊びに来た子世帯が宿泊場所として利用するほか、普段は来客を迎える客間として活用できる。

住宅という箱モノだけでなく住宅で採用される部材を通じて、多様化する顧客ニーズに応えるのが住友林業だ。もともと、木造軸組工法で最大手の同社だが、部材供給にも力を入れている。子会社の住友林業クレストがフローリングやドア、収納などから提案する「ベリッシュ」を投入した。

自然素材である木の心地よさとデザインを活用した挽き板フローリングや、六つのインテリアスタイルをベースとしたドアや収納など、色柄もラインアップを増やした。地震や衝撃による影響を低減させるための仕様や、長期使用を想定した設計配慮を取り入れる工夫も施している。

高齢化に対応した住宅を開発したのは三井ホーム。40―50代の2次取得者層を想定して老後の安心安全にも備えた注文住宅「オークリーⅡ」を発売した。大人が楽しむ家をコンセプトとする既存商品のオークリーをベースに、間仕切りなどの工夫により子育て後に友人などが集いやすい広々とした空間を確保している。

1階は居間を中心にキッチンやダイニング、多目的に使える和室「和・ヌック」を配置。戸外へとつながるくつろぎのスペース「コージーリビング」は吹き抜けとし、開放感を持たせた。和室は間仕切りにより来客の寝室になるほか、老後の備えとして玄関から直接アクセスできるようにしてあり、訪問介護が受け入れやすい。トイレもバリアフリーに配慮し、寝室のある2階との間を行き来するためのエレベーターの設置も考慮した。

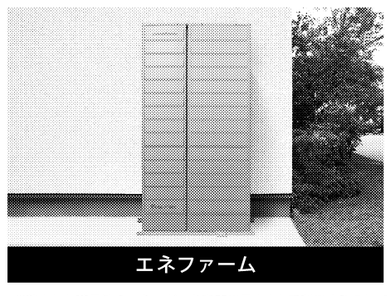
インテリアメーカーと連携した「ジーヴォ　グランウッド」
（大和ハウス工業、写真はキャトル・セゾンとのコラボ）

旭化成ホームズのコンパクトな二世帯住宅「都市の実家」

「一歩先のスマートハウス」。
住友林業から。

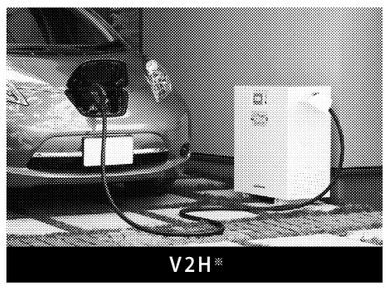
自然の力を活かした設計で省エネを実現しながら、
自宅でエネルギーをつくり、蓄え、
賢く使う木の家「スマートソラボ」に、
電気自動車に蓄えた電気を生活や
停電時にも使える機能を新たにプラスしました。
安心・安全や省エネルギーへの関心がますます高まる中、
社会が求める再生可能エネルギーを活かし、
家族の絆を守る住まいを。
またひとつ、住友林業から
未来へ向けた新しい家づくりの始まりです。

HEMS（ホームエネルギー・マネジメントシステム）

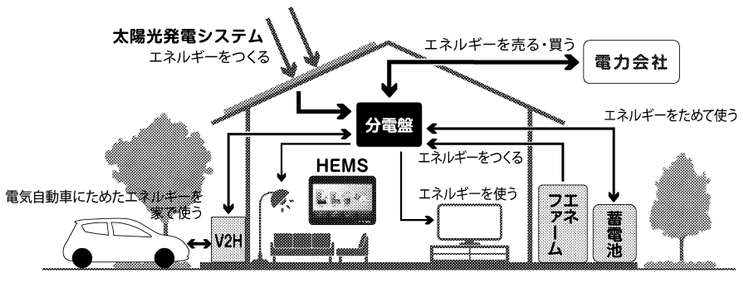


エネファーム

家庭用蓄電池



V2H※



※ピークル・トゥ・ホーム：電気自動車やプラグインハイブリッド車に搭載された蓄電池のエネルギーを家庭用電力として利用すること。「ピークル」は「車両」の意味。　日産リーフにのみ対応（2013年10月現在）。

資料請求券
Smart Solabo
日刊工業新聞
13.10

資料をご希望の方は、右記のフリーダイヤル、ホームページからお申し込みになるか、ハガキまたはFAXに資料請求券を貼り、住所・氏名・年齢・電話番号・建築予定地をご記入の上、右記のあて先までお送りください。

0120-21-7555　Fax 03-3214-3571
受付時間9:30～17:00（土・日・祝日もお受けします。）

※お客さまからいただいた個人情報は、注文住宅の建築請負等の当社住宅事業のご案内等に利用させていただきます。詳しくは当社ホームページ（http://sfc.jp/ie）をご参照ください。

＜ 詳しくはWebで ＞
sfc.jp/ie/lineup/solabo

住友林業
住友林業株式会社　住宅事業本部
〒100-8270 東京都千代田区大手町1-3-2